

株式会社ヒバラコーポレーション様が「DX セレクション 2025」の準グランプリを認定表彰！

当組合の組合員である株式会社ヒバラコーポレーション（代表取締役社長 小田倉久視氏）が、経済産業省により、「DX セレクション 2025」の準グランプリとして選定されました。3月24日に発表と選定の表彰を受けられました。内容等は中堅・中小企業等のDXのモデルケースとなる優良事例の15社として経済産業省ホームページ上に掲載されています。（以下の内容は、経済産業省ホームページより抜粋しております。）

1. DX セレクションについて

DX セレクションとは、デジタルガバナンス・コードに沿った取組を通じてDXで成果を残している、中堅・中小企業等のモデルケースとなる優良事例を選定する取組です。優良事例の選定・公表を通じて、地域内や業種内での横展開を図り、中堅・中小企業等におけるDX推進及び各地域でのDXの取組の活性化を目的としています。

今年度の「DX セレクション 2025」においては、「グランプリ」1社、「準グランプリ」3社、「優良事例」11社の計15社を選定しました。選定された企業のさらなる活躍と、これらのモデルケースが他の中堅・中小企業等におけるDXの取組の参考になることを期待します。

評価項目

DX セレクションの審査にあたっては、デジタルガバナンス・コードの以下の項目に対応する取組を中心に評価しました。

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定
2. DX 戦略の策定
3. 組織づくり・人材・企業文化に関する方策
 - (1) 組織づくり
 - (2) デジタル人材の育成・確保
 - (3) IT システム・サイバーセキュリティ
4. 成果指標の策定・DX 戦略の見直し
5. ステークホルダーとの対話

2. DX セレクション 2025 について

グランプリ

#	事業者	本社所在地
1	株式会社後藤組	山形県

準グランプリ

#	事業者	本社所在地
2	株式会社近藤商会	北海道
3	株式会社ヒバラコーポレーション	茨城県
4	株式会社コプロス	山口県

#	事業者	本社所在地
5	有限会社道環	北海道
6	株式会社クリーンシステム	山形県
7	株式会社メコム	山形県
8	株式会社ヒカリシステム	千葉県
9	株式会社トーションパートナーズホールディングス	東京都
10	株式会社池田組	富山県
11	株式会社樋口製作所	岐阜県
12	内藤建設株式会社	岐阜県
13	株式会社eWeLL	大阪府
14	株式会社モリエン	兵庫県
15	株式会社白海	福岡県



グランプリ

優秀グランプリ

優良事例

株式会社ヒバラコーポレーション（製造業）／茨城県東海村

企業概要（URL）	資本金	従業員数	代表者
https://kougyoutosou.com/	30百万円	51名	小田倉 久視
事業概要			

DXの取組プロジェクト等

- ヒバラコーポレーションのDXは、「DX推進プロジェクト」を中心に「既存ビジネスモデルの深化」と「業態変革・新規ビジネスモデルの創出」の両軸で推進している。
- 既存ビジネスモデルの深化（社内DX）
 - 生産管理や設備監視システム、配合条件アドバイザーを自社開発し、工場の生産性向上・品質安定化を目的にデジタル化を推進している。また、AIやロボットなど最新技術も積極的に取り入れ、混流ラインの自動塗装や、塗装面検査の自動化などにも取り組んでいる。
- 業態変革・新規ビジネスモデルの創出（DX事業）
 - 社内DXのノウハウ・技術をサービスとして販売するDX事業を展開。設備監視システムをフック商品に、顧客ニーズに応じて、生産管理システムやAI・ロボット技術を活用した高付加価値ソリューションへ展開するビジネスモデルを戦略としている。システムを自ら開発し、自社工場で運用・評価することでノウハウを蓄積し、その知見を基にDX事業を展開している点が大きな特長となる。

DX推進の成果

- 社内DX推進の成果
 - 設備監視システムを開発し、設備異常の早期検知や稼働率UP、品質の向上を実現した。また、塗料の最適配合を支援するシステムの開発は品質向上と廃棄塗料の削減に大きく貢献した。AIやロボットの活用では、混流ラインでの自動塗装システムを開発し、運用を開始した。塗装面自動検査は実用化に向けて大きく前進。現在は、現場での実運用に向けた機能強化を進めている。
- DX事業推進の成果
 - 生産管理や設備監視システムを外販、複数社へ導入した。最近ではAI技術を活用した派生システムの引き合いが増加している。「自社開発 × 自社運用」で得たノウハウを強みとして、競争力のある、より実用的なソリューションの提供を実現している。



グランプリ

優秀グランプリ

優良事例

DX実現に向けたプロセス

意思決定 経営ビジョン・戦略策定	全体構想・意識改革 全社を巻き込んだ変革準備	本格推進 社内のデータ分析・活用	DX拡大・実現 顧客視点やサプライチェーン全体への変革の展開
<ul style="list-style-type: none"> 「多様化する市場ニーズをつかみ時代に合った柔軟な生産システムを創造し工業分野への機能的なシステムと革新的なコーティングテクノロジーを提供する事で社会にステナブルな貢献をし、社員物心両面の幸せを追求する」の経営理念のもと、ヒバラDX戦略を策定。 <p>経営者がスピード感を持ってリーダーシップを発揮した事例</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営者主導で「ヒバラDX戦略」「行動指針」を策定した。 「ヒバラDX戦略」は、社内DXとDX事業の両軸で推進するものである。 DX事業（外販事業）は経営者のスピード感ある意思決定が、市場進出への足掛かりとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> DXを経営基盤の強化と持続的成長の手段と位置付けた。 DXはトップダウンと現場主導の両面から推進。DXプロジェクトにて全体最適視点での判断を実施。 自社開発システムに加え、ノーコードDBや各種ツールを活用し、業務プロセス全体のデジタル化を推進。 <p>身近な部分における取組の成功体験</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産部門と開発部門が連携する「協働型開発モデル」を確立したことで、導入の障壁を下げ、スムーズな運用定着と成果創出を実現した。 ノーコードDBや各種ツールを活用した、日々のデータ入力やデータ共有が定着したことで、業務のデジタル化を推進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 設備監視システム安定稼働等を目的に、設備状態を監視するシステムを構築。 ロボット塗装システムAI画像処理 × ロボットの活用により自動化。 配合条件アドバイザー品質標準化、廃棄塗料削減に向け、最適配合条件を指示するシステムを構築・運営。 <p>DXを進める上での苦労や行った工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> AIやロボットの現場適用に苦労。ロボット塗装では、PoCを繰り返して、現場のフィードバックを反映しながら調整を重ね稼働に漕ぎつけた。 ロボットやAIの技術者養成とスキルアップに向けたリスキリングを推進。社内研修や実践教育を通じ、DX推進の基盤を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産管理・設備監視システムを外販し、DXを促進可能なシステム提供により、工業塗装業界の効率化に貢献。特に生産管理システムは、間接業務効率化へ寄与。クラウド型設備監視は製造業全般で活用され、現場の見える化を実現。 AI技術やロボット活用技術の製品化により省力化への貢献。 <p>将来のビジョンや今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> 業界横断を意図した業界プラットフォームを構築し、データ活用による最適生産を推進する。 AI・ロボット技術の高度化を進め、塗装業界のスマートファクトリー化に貢献する。

DX推進体制（人材の育成・確保の取組／外部の支援機関等の活用）

- 全社的にDXを加速するために、DX推進プロジェクトを設置。経営層の関与のもと、部門横断的な体制を構築し、DXを推進している。
- DX推進に必要なスキルを強化するため、社内リスキリングを推進。特にロボット・AI技術の習得を目的とした研修や実践教育に注力した。今後は、高度な技術力を持つ外国人エンジニアの採用検討なども含め、DX推進体制の強化を図っていく。
- 大学や専門機関とも連携し、AI技術など新技術の導入を推進してきた。最新技術や知見を取り入れながら、社内の技術力向上を図っている。

弊社研究開発（D棟）と事業のご紹介

株式会社ヒバラコーポレーション

代表取締役社長 小田倉 久視

株式会社ヒバラコーポレーションは、研究開発棟（D棟）を2024年1月に竣工いたしましたので御紹介させていただきます。

株式会社ヒバラコーポレーションは創立50周年を迎え、本研究開発棟（D棟）も今後のDXソリューションの提供と高品位工場塗装の提供を大きな柱とし展開してゆくための建立となっています。

製造業においては、生産性の向上や、品質向上、人手不足、省人化の対応など、現場では常に問題を抱えています。当社ではデジタルの力でそれらの課題を解決し、製造業の発展に貢献すべく、DXソリューションの提供として、製造業の省人化対策、AI技術の活用や製造工程の効率化を追求するシステムの研究開発を目的に、この研究開発棟を建立いたしました。

<研究開発棟（D棟）詳細>

1階 工場（開発エリア）	333.55 m ²
2階 開発室・ユーティリティルーム	284.08 m ²
延べ面積	2658.25 m ²

この研究棟の活用により、当社はこれからの事業における一つの柱として、AI技術や自動化の推進に注力し、中小製造業の省人化対策のためのシステム開発・販売を行うことで、変革に寄与することを目指してまいります。今後も先進的な技術開発を通じて、皆様の生産性向上と持続可能な製造の実現をご提案・ご提供できるように貢献してまいります。

<現在 開発・提案サービス製品群>

- ① 設備監視システム開発・販売
- ② 業界別専用クラウド型プラットフォームの開発
- ③ 表面検査システム開発（AI技術利用）
- ④ DXコネクタ 32チャンネル（各種センサー対応）
- ⑤ 生産管理システム開発（製造業向け）
- ⑥ 配合条件アドバイザー
- ⑦ 製造業向け各種AI技術ソリューション

これらの開発・提案サービスが、昨今の環境問題におけるCO₂など温室効果ガスの排出量の測定や、材料、原料コストの問題、排水処理など、データ化することで適正値を導き出すお手伝いができるかと確信しております。

お困りの際は、是非当社にご相談ください。



研究開発棟（D棟）外観



1階 工場（開発エリア）



2階 開発室・ユーティリティルーム

表紙解説

表紙絵画：小島輝夫

表紙写真

「春爛漫」

この時期は、農作業が盛んになるころだ。野菜畑の緑、白桜、海軍道路の桜のピンク色と見事な春の彩である。その中で農作業をする人はこのような景色を見ている暇も無いのでしょうか。

パウダーコーティング

ISSN 1346-6739

2025年4月15日 Vol.25 No.2

発行所：日本パウダーコーティング協同組合(JAPCA)

東京都港区芝5-31-16 YCCビル9F

TEL: 03-3451-8555 FAX: 03-3451-9155

URL: <http://www.powder-coating.or.jp>

制作：パウダーコーティング誌制作部

©2025 日本パウダーコーティング協同組合

本誌に記載されたすべての記事内容について、日本パウダーコーティング協同組合の許可なく転載・複写することを禁じる。

パウダーコーティング
二〇二五年四月十五日
定価 二〇〇〇円

ISSN 1346-6739
Vol.25 No.1

発行：日本パウダーコーティング協同組合 (JAPCA)
東京都港区芝五・三・一六 YCCビル
制作：パウダーコーティング誌制作部